

名優、アンソニー・ウォンが映画『白日青春—生きてこそ—』で来日

NPO法人日本香港協会（東京） 広報委員 武田 信晃

新型コロナが明け、2023年後半に入り、香港映画の日本公開が活発化している。その1つが香港の名優、アンソニー・ウォン（黄秋生）が主演した映画『白日青春—生きてこそ—』だ。香港のアカデミー賞である「金像獎」で最優秀主演男優賞にノミネート、台湾の「金馬獎」では最優秀主演男優賞を受賞した。彼が日本上映にあわせて来日し、2024年1月26日に舞台挨拶を行った。

◆あまり知られていない香港の難民を描いた力作

あらすじは、タクシー運転手の陳白日がパキスタン人の難民と事故を起こし、その子供ハッサンを知る。その事故で父を亡くしたハッサンは、横道にそれ始め、警察に追われる身に。難民の息子ということで、守ってくれる人も、香港に居場所もないと嘆くハッサン。贖罪の気持ちから陳白日は、逃亡を助けようとするが、タクシー内に父の遺品を見つけたハッサンは、事故の相手が陳白日だと認識する……。

舞台挨拶でアンソニー・ウォンは「以前、出演した『淪落の人』と同じ制作会社で、その流れからオファーがありました。当時は新型コロナの時期で、暇でこれ以上、映画に出ないことになる、もう演技ができ



時折、冗談を交えながら挨拶したアンソニー・ウォン

なくなるんじゃないかという心配もありました。脚本は完璧ではなかったのですが、監督と会い、対話を重ねながら映画を作っていました」

複雑な心情を抱える役柄として注意した点は「自分自身が役のことを考えすぎないように意識しました。監督からも特に演技指導もありませんでした」と撮影も順調に進んだことを振り返った。

香港政府は「難民の地位に関する条約」を批准していないため、難民を庇護する義務はなく、難民申請が成功する確率は低い。申請者には2018年の時点で、月額1,500香港ドルの住居補助金、300香港ドルの水道光熱費の補助金、約200～400香港ドルの交通費の補助金、1,200香港ドルのスーパーマーケットの現金券などが提供されるが、働くことができないため、生活は困窮している。

「どこの国で、どんな親に生まれるか」は「親ガチャ」だ。恵まれた環境にいる人は、難民を理解しようとし、寄り添う姿勢が大事であることを教えてくれる。

日本人は、自国の難民問題の知識を持っていない人が多く、まして香港の難民について語れる日本人は少ない。まだ知らない香港を知る上でも観ておくべき1本と言える。



PETRA Films Pte Ltd © 2022

2024年5月発行（禁無断転載）

目次

名優、アンソニー・ウォンが映画『白日青春—生きてこそ—』で来日	1
香港新界と広東省の境界沿いの村を巡る—禁區「沙頭角」探訪レポ	2
私と香港ビジネス	3
各界で活躍する香港日本人学校OB・OG 第4回	4
香港フィルムアート 現場レポート	6
連合会・各協会便り	
全 国：香港経済貿易代表部が辰年を祝う春節レセプション2024を東京で開催	7
東 京：日本香港協会クリスマスパーティ2023 第23回NPO法人日本香港協会（東京）総会	8
関 西：香港ビジネスセミナー開催／香港フォーラム参加 チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー開催	9

中 部：会長就任挨拶／ご挨拶	10
九 州：春節セミナー&パーティー2024開催	11
山 形：山形日本香港協会 春節セミナー2024開催	12
北海道：「香港屋食講演会2024 in北海道」開催	13
宮 城：「春節セミナー&パーティー」を開催	14
沖 縄：春節・香港ビジネスセミナー～香港の最新事情と沖縄の企業の可能性～開催	15
広 島：香港現地視察／春節意見交換会	16
新 潟：「香港フォーラム視察ツアー」「新潟県産食品フェア視察ツアー」の同時開催 春節セミナー&パーティー開催～新潟農産物の香港輸出について～	17
高 知：春節セミナー開催	18

香港新界と広東省の境界沿いの村を巡る—禁區「沙頭角」探訪レポ

NPO 法人日本香港協会（東京） 広報委員 汪 江美子

“戻りたい 戻れない……そろそろ禁區” かのレスリー・チャンもカバーした中森明菜の名曲『禁區』の歌詞ではない。寒さの残る2024年3月初頭。禁區許可証のハードコピーと香港IDカードを手渡した私に、ひっつめ髪若の若い女性警官が眼鏡越しに無表情で頷く。開放にあわせて急いで作られたのだろう。景観とは場違いな丸文字の真新しい看板にwelcomeと出迎えられ、私たちは検問所を通過し文字どおり“禁區”に足を踏み入れた。

1カ月前。それは在港歴20年超のOさんとの会話に遡る。「つかぬことを伺いますが、沙頭角の禁區に『平日の会社の日にお休みをとって行く』レベルまでの興味はありますか？」2024年1月から“禁區”が個人旅行者にも開放されるという記事はざっと流し読みした記憶はあるものの、忙しさに紛れてそのままになっていた。

翻訳の仕事をしてられるOさんがアレンジくださり、仕事を通じた付き合いもある編集者のM女史、香港を紹介する動画を製作されてられるYさん夫妻。MTR東鉄線粉嶺駅に集合した私たち5人は駅前のバス乗り場から沙頭角行き78Kバスへと乗り込んだ。

バスの終点一つ手前の停留所で降りた私たち。Oさんの提案でまずは禁區の外からフェンス越しに禁區を眺める。「許可証なき者、立ち入るべからず」警告する看板が至る所で物々しい。



警察の検問所を抜けて柵の左を進むと突き当たりが中英街（深圳）

検問所を抜けると、道沿いに、紫色、青りんご色、ピンク色。カラフルな色合いに連なる公営住宅が目飛び込んできた。なんでもオレンジ色の公営住宅は通称「サーモン・ハウス」と呼ばれているのだそうだ。そう言われて外観を見ると、もう、鮭の切り身にしか見えてこない。印象的な公営住宅群。台風ワンダ（1962）の襲来で沈没した船を捨て、海上家屋を建てて生活していた元水上生活者たちが、政府の海上家屋撤去の決定（1985）に従い、付近に建設されたこの公営住宅に移り住むことになったのだとOさんが背後の歴史を教えてくれた。

辿り着いた街の中心部にはお馴染み Wellcome や 7-Eleven、中国銀行（香港）も。郵便局で購入した切手には沙頭角（Sha Tau Kok）を表すSTKの文字が印字されていた。禁區探訪の記念は使ってしまうのが惜しく



2階ベランダから中英両陣営の対立の最前線となった中英街を望む

で、未だ手元に置いてある。

「お義父さん、あそこに見えるんじゃないですか？」歩を進めていたら、Yさんが茶目っ気たっぷりに振り返った。今日は義父が深圳に出張しているのだと何気なく話していたが、確かに、肉眼で義父を探し出せそうなほど、それほどまでに深圳はこの村に迫っていた。深圳側にそびえたつ高層マンション群と素朴な村の風景の広がるこちらの香港。「あちらの住人の皆さん、いつもどんな気持ちでこちら側を見下ろしているんでしょうね」M女史が呟く。

村の外れで「ワンワンワン」見慣れぬ5人組に飼犬たちが一齐に騒ぎ出した。「ワンワンワン」犬たちの鳴き声は深圳側にある高層マンションの壁にこだまし、すぐこちら側に跳ね返って来る。最初こそビクッとしたものの、幾度となく反響するこだまが次第におかしくなってきた。私たちは顔を見合わせて笑った。

中英街の検問所そばのレストランでお待ちかねの昼食。食後、Oさんが顔馴染みの店のオーナーにお願いしてくれて、2階のベランダに上り中英街を眺めることができた。道の真ん中には、1905年、香港政庁が境界を示すために建てた20個の石碑のひとつが鎮座するのが見て取れた。四方を海に囲まれた日本で育ち“国境”を目にしたことのない私は、線はひかれていないけれど確かにそこにあった境目を感じ、得も言われぬ気持ちになった。

1951年、大陸からの不法な越境や密輸を防ぐ目的で禁區が設けられ、沙頭角では集落の中に境界線が引かれ70余年。政府は今後、この地の観光の発展を期待しているのだそうだ。北部都市圏発展計画の波でこの村は一体どこへ向かうのか。今回は食べ損ねたけれど、畑で香ばしく甘い匂いを漂わせていた香港“最北端”の焼き芋を食べるのを口実に、私は、いつかまたこの地を訪れるだろう。

〈プロフィール〉

汪江美子（わん・えみこ）／サロンジャパン(株)取締役営業マーケティング部長。香港を拠点に映画、ドラマ、CM等の撮影を行う総合映像プロダクション会社にて日本事業戦略を担当。

私と香港ビジネス

NPO法人日本香港協会（東京）会員 常盤 潤一郎

◆1989年の暗い記憶の中、1回目の香港へ

私が初の海外駐在で香港に最初に赴任したのは、はるか35年前の1989年10月でした。その年は忘れもしない6月4日あの天安門事件が起きました。事件後ハンセン指数が2,000強と大暴落し、中国以外の世界が大騒ぎとなったのはご存じの通りです。英国の1997年まで統治という枠組みが香港にあったにも拘らず、同じ6月に香港赴任の内示を受けたノンボリの私は、行くのが怖いというのが素朴な気持ちでした。

◆合弁会社勤務における若輩日本人企業人の当時の雑感

私が勤務したのは日米合弁の食品製造販売会社のアジア本部でした。オフィスは香港島のど真ん中のジャーディンハウスにありました。その事務所の構え方に日米の違いをまず知らされることになり



オフィスの自室にて（1992年）

ました。事業の身の丈に合わせるよりも自分たちの仕事のし易さ、プライドを優先させているように思えたからです。その違いは次第に、お金の使い方、経営の考え方に至るまで様々な要素で実感することになりました。外資企業を知っている或はお勤めの方は勿論ご存じでしょうが、最も特徴的なのはトップ以外交際費も社用車も無し、経営の方針や戦略の決め方も基本的にトップダウンで、現場の意見は有効性に余程の説得力が無い限り聞くに留め、自分の考えが正しくそれを教えてやるから従え、またグローバル方針の浸透に執着する、という様式に見えました。

◆香港の余暇

仕事以外では大別して3つの思い出があります。一つはやはり日本では味わえない広東を始めとした美味しい中国料理、二つ目は家族との香港の外への旅行、三つ目はマクレホース・トレイル・チャリティーランへの出場です。一つ目は申す迄もなく、二つ目も狭い香港からの脱出は日本人駐在員とその家族なら誰しも実施されたことでしょう。しかし三つ目の経験者はあまりいらっしゃらないのではないのでしょうか。山・谷・浜辺を含む100km弱の一筆書き（狭い香港で！）の道を4人一組が48時間以内でゴールを目指すものでかなり過酷な競技です。自分の記憶では3回完歩できました。素晴らしい眺



当時同僚だった東京協会伊東理事と（1993年）

望、真夜中の猿と虫、歩き寝（寝ずの歩行に非ず！）、感無量の完歩、全てが脳裏に焼き付いています。

◆2011年、2回目の香港へ

1回目の香港勤務から台湾での連続駐在を経て1998年に帰国した後は、因習的な日本の企業人生活に夜遅くまで嵌まり、家族をケアする余裕も無かった時期が続きました。また、2003年には上述の合弁事業が相手方の事情



勤務先の旧正月パーティ（2013年）

で解消（日本側が売却）となり、自分が微力ながら貢献したものが消えてしまう寂寥を覚えました。そんな中、2011年に2回目の香港勤務を命じられ赴任しました。今度の勤務は、深圳の工場には何度も足を運び、大陸人とやり取りし、いわゆる生産性改善活動の取り纏めを行いました。漸く成果が出始めたと思ったら、地元行政から立ち退きを迫られ止む無く撤退し、製造業が似合わない香港に生産業務を戻すことになりました。稼働開始後、人手とスキルの不足で計画通り産出できない日々が続きました。その後間もなく、私は別の国のこれまた合弁事業管理に携わることになり香港を離れたのですが、結局この会社も所属する親会社が業績不振で手放すことになったのでした。これらを要するに、私の香港に於けるビジネスはつらい事が多い結果となってしまいました。

◆これからの香港と香港人と私

日本の食製品（該当地域品）に対する信頼は東日本大震災発生後厳しい状況におかれましたが、日本食への関心はまだまだ高いと聞いてい



勤務先従業員による誕生日祝（2013年）

ます。日本の食関連企業の進出も衰えていません。一方で当面は、国家安全維持法の施行、様々な圧力等、後向きの要因ばかりが喧伝されています。それでも、今の体制による閉塞が永遠ではないはずで、たくましい香港人は生き抜いていくのだろうと私は勝手に確信しています。また、日本の窮屈な労働事情やキャリア市場を嫌う（特に女性の）日本人が香港を始めとしたアジアで活躍の場を広げていると聞くにつけ、私が知っているこうるさいけれど自由闊達な香港の生活とビジネスが、寧ろ日本を活気づけてくれることを期待しています。またなんとか長生きして、2047年（返還後50年）に香港がどうなっているかを見に行きたいというのが私の夢です。

かつて香港日本人学校に通ったOB・OGで、現在第一線で活躍する人たちに香港の思い出と今のお仕事を聞きました。

ゲスト：平田 健治さん（キューバ駐劄特命全権大使）

聞き手：平野 純一（NPO法人日本香港協会広報委員）

伊東 正裕（NPO法人日本香港協会広報委員）

◆香港で感じた貧富の差

——香港に住んでいたのはいつごろですか。

平田 1969年から72年です。小学部1年の2学期から4年の1学期までいました。兵庫県西宮市から行き、香港での家はセントラルから少し山の中腹に上がったケネディ・ロードのアパートにありました。



平田健治さん

——香港の印象はいかがでしたか。

平田 当時の香港はとても貧しい所だと感じました。市場は汚いし、物乞いもよく見かけました。私たちはおいしいご飯を食べているけれど、彼らはどのような生活をしているのだろうと子供ながらに思いました。スターフェリーの客室は1階と2階に分かれていて料金も違います。私たちはきれいな2階に乗りますが、1階は汚くて混んでいて、どうしてこんなに差があるんだろうと感じました。

そのようなものを見て、小学生の私は「将来は大金持ちになってこの人たちを救うのだ」という夢を持っていました。当時、私は純粋でしたね。

——香港日本人学校の思い出はどのようなものですか。

平田 楽しかったことと嫌だったことが入り交じっています。楽しかったのは体育の授業でハッピーバレーに行ったり、校舎にプールがなかったので、水泳の授業でタイロンワン（大浪湾）に行ったりしたことなどです。

嫌だったのは、今でもよく覚えています。毎週月曜日の朝に行われる漢字テストでした。お腹が痛いと言ったので、3～4回休んだらバレてしまい、結局全部白状しました（笑）。

——学校以外の香港の生活はいかがでしたか。

平田 アバディーンの水上市レストランは印象に残っています。小舟でレストランに渡るのですが、その舟には汚れた服を着た船頭の子供も乗っていて、ここでも貧富の

差を感じました。

オーシャンターミナル（海運大厦）もよく行きました。ドイツの鉄道模型メルクリンの店があり、そこに行くのが好きだったからです。店には大きなジオラマがあって、飽きずにずっと見ていました。また、父はクラシック音楽が好きで、セントラルのシティホール（大会堂）によく演奏会を聴きに連れていってもらいました。小学生がクラシックの演奏会にしょっちゅう行くなんて、日本ではありえないですね。海外での生活だから経験できたことだと思います。

——今の香港は当時と比べるとかなり変わっています。

平田 そうですね。ものすごい変化です。15年ほど前に仕事で香港に行く機会があり、かつて住んでいたケネディ・ロードのアパートにも行って見ました。当時は1階に住んでいましたが、北に向かって大きなベランダがあり、九龍のライオンロック、オーシャンターミナル、啓徳空港などを見下ろすことができました。それが今では、高いビルやマンションに囲まれ、景色がまったく見えなくなっているのみならず、周囲から見下ろされているようでした。この変わりようには驚かされました。

◆新聞は国際面に関心があった

——外交官を志したことに香港での生活は影響していますか。

平田 香港に住んだことで、自分の関心が海外に向いたことはあると思います。父は商社勤務でしたので、その影響も大きいです。中学2～3年ごろから新聞を読むようになりましたが、国際面ばかり読んでいたように思います。香港の経験と父の仕事が私の人生に大きな影響を与えたことは間違いありません。

さらに高校生になり、ワルトハイム国連事務総長の著書『世界で最も厄介な仕事～平和のための挑戦』を読み、すごく感動して将来は国連職員になりたいと考えるようになりました。そこで進路指導の先生に「どうしたら国連職員になれるか」と相談すると、先生は「国連職員は終身雇用ではないし、日本にもなかなか戻れない。外交官の方がいいんじゃないか」と言うのです。それが外交官という仕事を知るきっかけでした。さっそく、新宿の紀伊國屋書店に行って外務省に関する本を探して読み、良さそうな仕事だと思って、高校2年生で将来の目標は外交官と決めました。



香港日本人学校小学部3年生時の1枚。後列右から3人目が平田さん



キューバ駐箚特命全権大使 平田健治さん

——早くから進路を決めたのですね。

平田 そうですね。そこからはブレませんでした。高校3年で父がロサンゼルス勤務になり、家族も一緒に行ったので、私1人が日本に残り、まかない付きの下宿で生活しながら大学受験をしました。かなり大変でしたね。大学では3年生でオーケストラの部活動を辞め、図書館に通って必死に勉強しました。体重も6~7キロ落ちるほどでした。

外交官試験では、2次試験の口頭試問で自衛権行使の要件を問われ、まともに答えられなかったので「これは落ちたな。もう1年勉強して頑張ろう」と思い、心機一転で髪を丸坊主にして、「さあやるぞ!」と思っていたら合格通知が届きました(笑)。



コースウェイベイにあった香港日本人学校タワーコート校舎(1974年まで。右から2番目の建物)

——入省後はスペイン語圏の勤務が多いです。

平田 日本の外交官は一つ専門言語を習得することになっているのですが、たまたまスペイン語が当たってよかったです。スペイン語をしゃべる人は温かくて優しいので。国連代表部に勤務した時も、会議で私がスペイン語で発言すると、発言後に中南米の外交官が集まってきて「お前は日本人なのになぜスペイン語をしゃべる?」と会話が広がり、アミーゴ(友達)が増えました。

——ペルーの日本大使館勤務時には大使公邸占拠事件(1996年)に巻き込まれたそうですね。

平田 はい。一等書記官として勤務していました。その日は天皇誕生日祝賀レセプションを開催していて、ペルーに駐在する日本人やペルー側要人が多数出席していました。突然ドーンという爆発音がしてテロリストが入ってきて、そこから先は映画のようでした。完全武装したテロリストを見て、生きてここを出られないだろうと思いました。あまりに現実離れした経験でしたので、悪夢を見ているようでした。

——その他にも多くの国に赴任されています。

平田 米国(国連代表部、在マイアミ総領事館)、メキシコ、ベルギー(EU代表部)、アラブ首長国連邦、スペインなどに勤務しました。もちろん日本(外務省本省)でも働いていますが、3分の2ほどが海外勤務です。

◆子供たちは英語を話す方が楽なよう

——大使の仕事は苦勞も多いのではないですか。

平田 日本政府を代表してキューバにいるわけですから、もちろん責任の重い仕事です。大使館の仕事は大きく分

けて二つあり、一つは日本政府の目となり耳となりキューバの情勢分析を行うこと、もう一つは手となり足となり、在留邦人を守るとともにキューバに日本を知ってもらうことです。日本に憧れを持ってくれるキューバ人はたくさんいます。私はキューバの地方にも出掛けて行き、日本に関心を持ってもらえるよう講演などを多く行うようにしています。

——外交官の仕事で香港の経験が生きたことはありますか。

平田 直接的に何かあるかという点では難しいですが、外務省に入った時に上司から「どういう仕事がしたいのか」と聞かれて、私は「開発に関心があります」と答えました。それは、かつて香港で見た激しい貧富の差が頭の片隅にあったからだと思います。

——海外勤務が長いですが、お子さんは海外で日本人学校に入れましたか。

平田 私には子供が4人いて、上3人が女の子、一番下が男の子ですが、次女をベルギーのブリュッセル、長男をUAEのアブダビで日本人学校に入れた以外、あとはすべて現地校かインターナショナルスクールに入れました。

——それは大変でしたね。

平田 子供たちは私や妻と話す時は日本語ですが、子供たちだけで集まると英語で話しています。英語の方が話が通じやすいようです。海外生活が長いので、彼らが日本人としてのアイデンティティーを十分に育むことができたかという点、おそらくそうではないでしょう。日本社会は世界の中でもある意味で特殊なところがあるので、これでよかったのかどうかはわかりません。ただ、将来、海外経験が人生を豊かなものにしたと気づいてくれればと願っています。香港日本人学校に通う児童生徒の皆さんも、今のうちに日本とは違う世界を存分に体験しておかれると良いと思います。

——国際的な家族ですね。本日はお忙しい中ありがとうございました。

〈平田健治さん略歴〉

1962年生まれ。一橋大学卒業。86年外務省入省。外務省本省、在ペルー日本国大使館、国連日本政府代表部、在メキシコ日本国大使館、EU日本政府代表部、在アラブ首長国連邦日本国大使館、在スペイン日本国大使館、在マイアミ日本国総領事館を経て2021年5月から現職。



右から伊東、平田さん、平野

香港フィルマート 現場レポート

香港貿易発展局東京事務所 アシスタント・マーケティング・マネジャー 丸子 将太

香港は映画の街です。香港映画の基盤を作ったショウブラザーズに、ブルース・リー、ジャッキー・チェン、一昔前はウォン・カーウァイの映画も日本で人気を博しましたが、以降も数々の名作品名俳優を輩出しています。昨年香港映画歴代興行収入第1位を記録した『毒舌弁護人〜正義への戦い〜』は、日本でも公開され、2023年11月の香港映画祭には主演のダヨ・ウォンも来日されました。

映画やテレビドラマも、立派な輸出コンテンツとして世界各地で売買されていますが、アジアで映画・テレビコンテンツ売買の中心的なイベントが、毎年3月に開催されるアジア最大のコンテンツマーケット「香港フィルマート」です。

今回で28回目を迎えた香港フィルマートには25の国と地域から750社の出展社が参加し、50の国と地域から7,500名以上のバイヤー、ビジターが足を運び、各国の様々な映画、またテレビ番組等がプロモーションされました。香港フィルマートの一番の魅力はなんと言っても、数々の香港スターが登壇する各制作会社主催の新作発表会です。会場内で開かれる各社の新作発表会には、レオン・ライにレイモンド・ラムなど往年のスターはもちろん、多くの若手俳優らも登壇し、新作のプロモーションをされていました。

会場内は装飾施工に趣向をこらした各国・地域別パビリオンも見応えがあります。中国の各省政府が地元の制作、配給会社を積極的に支援しているのですが、毎年フィルマートには各省ごとの豪華絢爛なブースを設営します。もちろん中国だけではなく、今年は台湾、タイ、インドネシアのパビリオンも業界関係者に向けたカクテル・レセプションをブース内で開催するなど、期間中は会場内の至る所で、様々なイベントが行われました。

今回日本からのブース出展は全部で44社。東宝、松竹、東映、KADOKAWAといった大手映画会社をはじめ



香港各社の出展ブース

め、TBS、日本テレビ、テレビ朝日といったテレビ局も単独ブースを設け、日本でもまだ公開していない新作や日本でも大ヒットした作品のプロモーションを行いました。パビリオン出展としては、東京国際映画祭を開催しているユニジャパンが、日本映画を中心としたパビリオンを、日本民間放送連盟傘下の国際ドラマフェスティバルin TOKYOはテレビ局を中心としたテレビパビリオンを、そしてロケ誘致のプロモーションとして映像産業振興機構が全国各地のフィルムコミッションをとりまとめ、ロケ誘致を目的としたパビリオンを運営しました。

フィルマート会場内で開催されるセミナーイベントには、東映アニメーション清水慎治顧問兼プロデューサーや、バンダイナムコフィルムワークスの西川朝子プロデューサーがそれぞれ登壇し、国境を越えた共同製作について発表されました。また日本の経済産業省が事務局を務める Asia Content Business Summit の特別カンファレンスも会場で開催され、開会挨拶には中小企業庁の前田泰宏元長官がビデオメッセージで登場しました。

また日本のメディアでもご覧になった方がいらっしゃるかと思いますが、アリババがメディア向けの発表会をフィルマート会場内で開催し、そこで香港のエンターテインメント分野に、今後5年間で少なくとも50億香港ドル（約940億円）を投じるというセンセーショナルな話題も登場するなど、香港フィルマートでは、最新のエンターテインメント業界の動向、そして最新の映画、ドラマに触れることが出来るマーケットとなっております。

アジア各国・地域の派手かつ積極的なプロモーションを現場で体感する一方で、日本の出展社の方々は試行錯誤しながら地道に日本の映画やテレビドラマ、番組を海外バイヤーに向けて販売している印象を受けました。10年後も、世界各地の人が日本の映画やドラマを見て、楽しんでもらえるといいなと思う今回の香港出張でした。



ジャパンテレビパビリオン

香港経済貿易代表部が辰年を祝う 春節レセプション2024を東京で開催

去る2月21日、香港特別行政区駐東京経済貿易代表部主催により、辰年の旧暦正月をお祝いする春節レセプションがホテルオークラ東京で開催され、政官財界、学界、メディアなどから約450名のVIPが列席しました。

主催者である香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部のウィンサム・アウ（歐慧心）首席代表は、各方面からの来賓への開会挨拶の冒頭で、これまで香港と日本は多くの分野の最前線において大変良い絆とつながりを築いてきたと述べ、香港が2023年においても日本の農林水産物の第2位の輸出市場であり、日本にとって第4位のインバウンド観光の供給市場であり、年間観光客数は210万人を超えている等について具体的に説明しました。



主催者と来賓の集合写真

同氏はまた、現在香港の航空会社4社（キャセイパシフィック航空、香港航空、香港エクスプレス航空、グレーター・ベイ航空）と日本の航空会社3社（日本航空、全日本空輸、ピーチアビエーション）が、香港と日本の12の国際空港との間で旅客便を運航しており、パンデミック収束後に復活した2つの地域のコネクティビティ（接続性）はさらに進化を遂げていると述べました。また、この接続性の強化により、ビジネスのみならずレジャーや文化交流にも扉が開かれている点についても強調しました。

さらに、2023年度には、親会社が香港域外にある企業の香港拠点数が9,000社超を数え、パンデミック前の水準にまで回復していることを紹介、中国本土を除く海外企業の中では日本企業の数約1,400社（構成比は全体の15.5%）と最も多く、その数は増加傾向にあると述べました。同氏は、そのほかにも香港の経済動向についての最新情報を共有、今後の香港の大きなビジネスチャンスを最大限に活かすための香港特別行政区政府の取り組みについても説明しました。

開会挨拶に続いては、日本の政界を代表して、参議院議員公明党山口那津男代表、参議院議員日本香港友好議員連盟自見はなこ事務局長による来賓挨拶があり、中華

人民共和国呉江浩駐日本国大使による乾杯のご挨拶とご発声、主催者と来賓の方々による壇上の記念撮影がありました。

2019年に建て替えが完了したホテルオークラ東京の



ライオンダンス

リュウフェは、焼き物や点心類など香港的なメニューの充実した豪華で美味しい料理のオンパレードで、レセプション後半に開催された香港往復航空券が当たるラッキードローも含め、参加者からの好評を博しました。

アトラクションとしては、春節恒例のライオンダンスが披露されました。二頭のライオンは、全ての参加者に福を届けるべく、会場内を練り歩き、大喝采を浴びました。今回、日本香港協会関係では、全国連合会の佐藤征洋会長とベンジャミン・ヤウ事務局長、東京協会の野島威副会長、小柳淳理事、協田誠理事、萩原伸一理事、原義弘理事、野口哲也理事、橋場清子理事、細貝孝一理事、ネルソン・チン理事、伊東正裕理事、福井一事務局長、大野雅明顧問のほか、関西協会の戒田真幸会長、新潟協会の吉田至夫会長、宮城協会の三橋勇副代表理事が列席しました。

協会メンバーを含め、参加された方々は、2023年より本格的に再開された香港との多彩な活動のニュースに希望と期待を抱きつつ、約2時間の祝典を存分に楽しみました。今後は、リアルなイベントの復活、拡大、延いては日本香港間の双方向の渡航、ビジネスのさらなる活性化が期待されます。



会場風景



日本香港協会クリスマスパーティ2023

4年ぶりの開催になりましたクリスマスパーティは約100名近くの前員及びそのご友人やご家族の方々がお来場され、大変盛況の下に開催されました。今回は日本香港協会の前員でもあるアグネス・チャンさんもお参加され、美味しいイタリアンディナービュッフェと香港往復航空券など多数の豪華景品が当たるラッキードローを楽しみました。ご来賓の香港経済貿易代表部レオ・ツェー次席代表に続き、教育学博士、歌手、タレント、エッセイストでもあるアグネス・チャンさんにもスピーチを頂きました。

イベントの目玉であるラッキードローの景品は、多くの前員の方々からのご厚意により集められ、今回の1等賞は香港航空ご提供の香港航空ビジネスクラス往復チケット、2等賞は香港のハーバープラザホテルからのご提供ハーバープラザホテル宿泊券（ツイン）2泊食事付、3等賞はリコージャパンご提供リコー360度カメラでした。その他にも各種商品券など多くの賞品がハズレなしにての進行となりました。なお、アグネス・チャンさんからはデビュー50周年記念グッズが5名の方に提供されました。

今年の年末はさらにパワーアップして開催いたしますので、是非ご参加下さい。



アグネス・チャンさんとデビュー50周年記念グッズが当選した方々

NPO法人日本香港協会 事務局長 福井 一

第23回NPO法人日本香港協会（東京）総会

3月5日、東京都千代田区一ツ橋の如水会館にて、第23回通常総会が開催されました。今年もオンライン主体の「ハイブリッド方式」での総会となりましたが、大変多くの正会員の皆様から事前に委任状を頂戴でき、無事に総会開催・成立に至りました。この場をお借りして正会員の皆様には厚く御礼申し上げます。

総会は、定款に則り事務局長から定足数の確認、総会成立を確認後、佐藤会長に議長を委嘱、定刻通り開始（当日17時）され、野島副会長より第1号議案「令和5年度事業報告書」の説明、事務局長から第2号議案「令和5年度活動計算書」及び付随会計書類（貸借対照表、財務諸表の注記、及び財産目録など）の説明を実施、杉野監事から監査報告を受けた後、第1号議案、第2号議案の採決を実施。満場一致にて承認を得ました。

その後、令和6年度の事業計画「第3号議案」について、大島理事が発表、内容として、①ドラゴンポートレース等の行事を今年度も昨年同様積極的に開催してまいりたい。②広東語教室運営方針や「華人経営研究」講座に関して現在次期講座開設のため鋭意準備中であることなどが報告され、承認を得ました。続いて小柳理事から令和6年度活動予算「第4号議案」に関して説明を実施、承認を得ました。

最後に佐藤会長から第5号議案「理事の選任」に関する説明を実施、その後理事会にて承認された新任理事、監事候補者のリストどおりにて、絶対多数で承認を受けました。

なお、オンラインご参加の理事・前員様に加え、当日現場には32名の前員の方々にご参加頂き、総会終了後も色々な意見・情報交換もできました。第23回総会を上記のとおりご報告します。



KANSAI

関西日本香港協会

関西日本香港協会 事務局

香港ビジネスセミナー開催

関西日本香港協会では、昨年の11月30日にインターコンチネンタルホテル大阪で「生命健康科学分野の商機と、グレーターベイエリア（GBA）を含めた今後の発展について」をテーマにした香港ビジネスセミナーを開催しました。香港政府は2023年以降「イノベーション&テクノロジー（I&T）」分野の発展に注力する方針を打ち出し、I&T分野に含まれる生命科学分野でも優れた企業や人材を海外から積極的に誘致しようと取り組んでいます。関西では特に生命健康科学の分野が有望であり、香港を舞台にグローバルな事業を展開出来る企業が多いので、関西日本香港協会、インベスト香港、香港貿易発展局の主催、大阪商工会議所の共催、JETRO他大阪の経済団体の後援で開催し、43名の参加者で有意義なセミナーになりました。



ライフサイエンスセミナー

講演1では、香港貿易発展局のリッキー・フォン大阪事務所長が「香港の様々な都市計画やGBAがもたらす可能性」について講演し、講演2では、インベスト香港のイノベーション&テクノロジーのアンディ・ウォン担当部長が「生命健康科学分野の商機：香港での研究開発から実用化、そしてその先」と題した講演をしてくださいました。医薬品、医療機器、バイオテクノロジー、ヘルスケア、医療関連サービス等を行う企業にとって香港の最新のビジネス環境や研究開発施設、政府の優遇政策や支援体制などが紹介されましたので、講演後のVIPゲストとの会食の席では、今回のテーマに関し大変活発で前向きな意見・情報交換がなされ、大変有意義なセミナーでした。

香港フォーラム参加

昨年12月5～6日香港で開催された香港フォーラムに当協会から13名が参加しました。渡航費用の高騰もあり、新型コロナの感染が始まった2020年以前より参加者数は減少しましたが、日本からの参加者84名は全体



香港フォーラム

の参加者の3割で、2日間のフォーラム会場で圧倒的な存在感でした。参加者の皆さん、会期中に海外の参加者とも積極的に交流していただきましたので、元気な香港を実感したことでしょう。

チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー開催

2月16日に中国料理「錦城閣」にて春節パーティーを開催したところ、前年より2割近く多い61名の参加者で盛会でした。パーティーは、戒田会長の開会挨拶で始まり、香港経済貿易代表部の日本のレオ・ツェー首席代表代理が来賓挨拶を行い、香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ日本首席代表が「新たなビジネスチャンスを生み出す香港の役割」について話され、香港貿易発展局のリッキー・フォン大阪事務所長の乾杯音頭で会食が始まりました。美味しい春節特別料理をいただきながら、親しくにぎやかに食事を楽しみ、34本の景品が当たるラッキードローでは、特別賞（キャセイパシフィック航空提供の香港往復ペアチケット）の抽選で大変盛り上がりました。今年は辰の年ですので、龍のごとく飛躍の一年にしたいとの我々の思いが参加者に通じて、皆さん元気でエネルギー溢れる活力に満ちた素晴らしい会になりました。



CNYパーティー



会長就任挨拶

全国各地の日本香港協会会員のみなさま、初めまして。2024年度より始動する中部日本香港協会の会長を拝命いたします越智成幸です。飛龍の紙面をお借りし、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年参加した第24回香港フォーラムならびに第13回全国協会交流会では、佐藤征洋全国連合会会長をはじめ、全国各地から現地へお越しになられた会員の皆様と直接

お会いして交流するなど、貴重な機会をいただきました。まだお会いしていない方もたくさんいらっしゃいますので、ここで簡単に自己紹介をさせていただきます。



越智新会長

私は2003年に愛知県豊橋市で貿易会社「株式会社ジェイアンドシー」を創業し、世界からニーズの高い「安全・安心・健康」の日本食材をアジア諸国、北米等の世界各国に届けてまいりました。また、新型コロナウイルスが流行した際には品質と価格を両立した衛生用品の開発輸入に取り組むなど、強力な海外ネットワークを活用して非食品のニーズにも応えてまいりました。2022年には海外輸出のプラットフォームとなる物流センターを愛知県弥富市に開設し、仕入から輸出までのサプライチェーンを構築しています。事業の拡大を続ける中で、香港は特

に重要なマーケットとなっており、日本全国から食品全般と日用品雑貨を中心に、毎月多くのコンテナを愛知県から出荷しています。

日本国内では人口の減少が続き、消費がシュリンクしていく中では、海外に販路を得ることが重要であると考えます。取引先企業とは商品の売買だけではなく、「ビジネスを通じてお互いが成長できる取組をしていかなければならない」との信念を持ち、皆様から必要とされる会社になるようこれまで取組んでまいりました。この経験をいかし、当協会においても香港とのビジネス促進の役割を担えるよう、微力ながら、皆様のお役に立てるよう、全力で取り組んでまいります。

新体制においては活動範囲を中部地域全体に拡大することを見据えており、同じ志を持つ会員の皆様が活発にビジネス交流できる事業を中心に実施する計画です。役員に就任する愛知、岐阜、三重の三県を基盤に活躍する製造、金融、物流企業と共に、当協会を盛り上げてまいります。今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



本格的な始動に先立ち春節昼食会を今年2月に開催

ご挨拶

中京日本香港協会 第4代会長 小山 圭子

中京日本香港協会は（新生中部日本香港協会の前身です）2023年秋に設立33周年を迎え設立記念パーティーを開催しました。

設立当初、元名古屋商工会議所会頭・名港海運株式会社高橋会長（故人）元三井物産株式会社香港社長小森副会長（故人）を中心メンバーとして構成、香港貿易発展局名古屋事務所は名古屋市中心の栄町ビル株式会社万国社内に在りました。マカオ本土返還の翌2000年の中京日本香港協会主催の春節パーティー&香港ビジネス講演が名古屋商工会議所で開催された折に、私は本協会会員となり理事に就任しました。

2001年には香港デザインミッションが来日、香港の

各ジャンルのデザイナー総勢50名が参加し、名古屋地区のアテンドを私が担当しました。トヨタ自動車、ノリタケ、CBC（中部日本放送）、中日新聞社の視察、中部デザイン協会とのデザインセッション&パーティーには総勢100名が参集し、香港貿易発展局からは感謝状が贈呈されました。以降、香港フォーラム、全国連合会主催による交流晩餐会への参加など、当協会は名古屋の香港中国ビジネス・文化交流両面の拠点として活発に普及活動を展開して参りました。当協会の本来の目的を達成する事が出来、2023年度の決算をもって、中京日本香港協会は解散する事になりました。

長年に渡りまして、全国連合会及び各地協会会員の皆様のご厚情に感謝し、皆様の益々のご多幸とご発展を祈念いたします。多謝。



KYUSHU

九州日本香港協会

九州日本香港協会 事務局

春節セミナー&パーティー2024開催

福岡では先日桜が満開となり、やっと寒い冬が終わり、春の暖かさを感じられるようになりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

九州日本香港協会では2月27日に会員の皆様と新年を祝う「春節セミナー&パーティー2024」を開催しました。今回のセミナーでは、香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ（游紹斌）日本首席代表をお招きし、香港市場の最新の現状を踏まえた「香港の動向並びにその魅力」についてお話いただきました。また、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部ウィンサム・アウ（欧慧心）首席代表にもお越しいただき、大変豪華な会となりました。参加いただいた皆様には、コロナ禍後の香港の最新情報を得る大変良い機会になったのではと感じております。



セミナーの様子

ヤウ氏のご登壇後には、当協会副会長兼西日本シティ銀行の豊住慎一国際部長より、12月3日から6日にかけて実施された4日間の香港・広州視察について、ご報告をいただきました。当協会により主催された本視察は、香港フォーラムの開催日程に合わせて実施され、九州からは21名もの参加者が集いました。広州では、深センの次に勢いがあると言われている南沙を視察し、新華集団GBAのジェイソン・チョイ社長のご厚意により、广汽トヨタ自動車、新華グローバルイノベーションセンター、広東メディカルパレーを訪問しました。香港では、福岡県人会と交流会、日本香港協会全国交流会、香港フォーラムに参加し、経済、医療、イノベーションだけでなく、近年、文化の分野でも魅力が高まっている香港の側面を強く認識する機会となりました。

豊住部長のご報告後には、春節パーティーが催され、抽選で賞品が当たるラッキードローイベントを実施しました。本イベントの開催につきましては、多くの企業様より大変素敵な賞品をご提供いただきました（注）。特にキャセイパシフィック航空様よりご提供いただきました



ラッキードローにて

た「福岡ー香港 往復ペア航空券」は豪華賞品として参加者の皆様の期待も高く、会場が大変盛り上がりました。会員同士で親睦を深める楽しいご歓談の場となったのではと感じております。

事務局としましても、会員の皆様と健やかに新春を迎えることができたことを大変嬉しく思っております。至らないことも多い事務局ですが、ご協賛いただいた企業様、会員様、関係者の皆様のお陰で盛況のうちに終えることができました。引き続き尽力してまいりますので、今年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

（注）協賛いただいた企業様と協賛賞品

企業(敬称略、五十音順)	協賛賞品
Bioman Asia	佐賀の日本酒
JTB 福岡支店	JTB 旅行券
アサヒビール	ワイン
味珍味 (香港)	モンブラン名刺入れ
キャセイパシフィック航空会社	福岡ー香港往復航空券
九州旅客鉄道	ヌルボンお食事券
九電工	天草オリーブ園 AVILO (アピーロ) 天草スペシャルブレンドブラックセット
正興電機製作所	イスラエルのヤルデンワイン赤
西鉄ホテルズ	ペアランチ券
西日本シティ銀行	ワンクグッズ、ワイン
福岡銀行	日本酒
ホテルオークラ福岡	ペアランチ券
マイナビ福岡支社	マイナビ50周年記念モバイルバッテリー
レイナ	オーガニック・エキストラバージン・オリーブオイル「オロ・デル・デシエルト」クパージュ250ml、CHIE IMAIローズ・コサージュ フレンチラバン





山形日本香港協会 春節セミナー2024開催

山形日本香港協会は、3月23日、香港貿易発展局との共催により、春節セミナーを開催しました。今年度の春節セミナーは、山形県、山形市、山形県国際経済振興機構、山形商工会議所、山形県商工会連合会からも後援を受け、開催しました。山形日本香港協会では、春節セミナーは2020年以來の約4年振りの開催となりましたが、延べ50名に近い、県内の多くの企業や関連団体の方々からご参加をいただき、滞りなく開催することができました。なお、今回の春節セミナーには、来賓として、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部のレオ・ツェー次席代表、山形県産業労働部我妻悟部長、山形市商工観光部高橋清真部長、山形県国際経済振興機構の永澤浩一専務理事、山形商工会議所の矢野秀弥会頭にご出席いただきました。

春節セミナーは、基調講演、香港の最新事情について、パネルディスカッションの3部構成となりました。



セミナーの来賓、登壇者、主催者

(1) 基調講演

門間箆笥店の門間一泰代表取締役より、「日本の伝統文化を海外へ 香港を活用した事業展開 ～富裕層向けビジネスの可能性と面白み～」と題して、お話をいただきました。講演では、門間箆笥店が香港に進出を決めた背景や進出時の取組み、香港進出を検討している企業へのアドバイスについて、詳細なデータや体験談をもとにお話をされました。特に香港への進出をしたいと考えている企業や団体の方々にとっては、大変示唆に富む内容だったのではないかと思います。さらには、門間社長の協力のもと、山形県及び山形県内の伝統工芸企業20社が2023年11月28日～2024年1月28日にコースウェイベイやハッピーバレーで開催した山形クラフトフェアについてもお話がありました。山形クラフトフェアは、山形県の伝統工芸品単体での香港出店は初めてでしたが、全

214アイテムが出品され、期間内での売上総額が330万円超、来場者からのアンケート結果も好評という形で終えられたとの事です。門間社長からも、今回だけで満足して終わらずに継続性が必要であること、インバウンド頼みでは京都や北海道といった他府県に東北は隠れてしまいがちであり積極的にアウトバウンドで知ってもらう機会を増やしていくべきだとお話がありましたが、山形日本香港協会としても、微力ながら、県内企業のお力になれるように取り組んで参る所存です。

(2) 香港の最新事情

香港貿易発展局東京事務所の伊東所長より、お話をいただきました。昨今の香港に対する日本の報道を見ると、政治的な面がクローズアップされることが多く、香港に対するネガティブな印象を与えかねないものが多い中、伊東所長から実際のデータや実例をもとに、香港の経済的な面での優位性や存在意義は失われていないとお話がなされました。

(3) パネルディスカッション

伊東所長をモデレーター、門間社長、丸屋本店鈴木亮吉社長、大沼みずほ山形日本香港協会会長をパネリストとして実施しました。パネリストの鈴木社長は、山形県東根市でお米屋の5代目として活躍されていましたが、2012年にお米の輸出と炊飯事業（回転寿司店やレストランに酢飯や白飯を納品）の現地法人BEST FOODS HK Ltd.を設立し、香港に進出しました。最近では、おにぎり事業や山形で自社生産した米を輸出して香港で炊飯加工・販売するバリューチェーンの構築を目指し、山形と香港での事業を通して地域農業を守り、日本の米文化の継承・発展に貢献することに注力されています。パネルディスカッションでは、香港での実例や体験談をもとに生の話が展開され、大変興味深い内容となりました。

レセプションでは、吉村美栄子山形県知事、佐藤孝弘山形市長の祝辞が披露され、実際の暦からは約1カ月後となりましたが、大変な盛況の中、春節を祝うことができました。



パネルディスカッションの様子



HOKKAIDO

北海道日本香港協会

北海道日本香港協会 事務局

「香港昼食講演会 2024 in 北海道」開催

「今年は暖冬」との予報に反して、例年通りの除雪に日々うんざりしていた北海道にも漸く待ちに待った春が到来しました。道民にとって厄介者である雪ですが、ウインタースポーツファンを中心に北海道のパウダースノーは世界中の観光客を魅了しています。

2023年5月の新型コロナウイルス感染症5類移行から初めて迎えたウインターシーズンは、円安進行の追い風もあり海外から多くの観光客が訪れました。札幌の冬の一大イベントである「さっぽろ雪まつり」の来場者数は、主催者発表で約238万人と2023年から4割ほど増加しました。また、スキーリゾートとして全国ニュースにも頻繁に取り上げられているニセコエリアだけでなく、ここ数年は夏場にラベンダーで有名な富良野エリアにも多くの方が訪れています。

現在、香港から北海道へは新千歳空港への直行便がありますが、昨年12月18日から2月26日までは、香港航空が函館空港への初となる季節定期便を運用していました。これにより、香港から冬の道南エリアに多くの方が観光で訪れていました。



開会に先立ちご来賓の皆さまとの記念撮影

観光を通じた様々な交流が活発に動き出すなか、3月14日に「香港昼食講演会 2024 in 北海道」をホテルモントレーエーデルホフ札幌にて開催いたしました。

当協会石水創会長の開会挨拶に続いて、香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ日本首席代表が主催者を代表してご挨拶した後、来賓としてお越しいただきました香



石水会長の開会挨拶

港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部ウィンサム・アウ首席代表、北海道土屋俊亮副知事、札幌市秋元克広市長からご挨拶を頂きました。

中華人民共和国の王根華駐札幌総領事の乾杯、ご挨拶終了後、味珍味（香港）有限公司ウー・トクアキ・デニス常務董事より「香港における日本食ビジネスと北海道の可能性」と題した講演を頂きました。講演では、LL牛乳や、たまご、乾麺など香港市場の人気商品のご紹介だけでなく、輸出における物流の課題についても説明がありました。



ウー・トクアキ・デニス常務董事による講演

更に、「Food Expo PRO 2023への出展を振り返って」と題したパネルディスカッションでは、合同会社ブランドスケープ井上俊彦CEO、株式会社ほんま本間幹英代表取締役、株式会社円甘味堀井久志代表取締役の3名の方にパネラーとしてご登壇頂き、香港貿易発展局東京事務所伊東正裕所長の進行で、香港市場の魅力や課題、展示会出展の重要性等について活発なご討議がありました。



パネルディスカッション

北海道日本香港協会では、引き続き香港と北海道の観光、ビジネスなど交流の懸け橋として様々な取り組みを行って参ります。



「春節セミナー&パーティー」を開催

2月14日「2024春節セミナー&パーティー」をパレスへいあんに於いて開催いたしました。コロナ禍明け4年ぶりの開催にもかかわらず、会員の方のみならず80名近くの方々にお越しいただき、例年以上に盛況を取ることができました。改めて御礼申し上げます。



パネルディスカッションの様子

◆春節セミナー

小野寺会長の開会の挨拶で幕を開け、第1部のセミナーでは、東北経済連合会の小野晋顧問にご講演いただきました。小野氏からは、「東北の輸出拡大戦略～宮城県の強みと課題～」と題して、東経連のこれまでの取組として、九州経済連合会と連携し収穫時期や産品の特長を活かした新たな販路開拓の実績や、海外にも店舗を展開する「ドン・キホーテ」を運営する株式会社PPIHと連携し東北の農水産物を継続的に取引できるような販路拡張策に言及されました。また、表題の通り宮城県の強みとして、イチゴ・梨・米など宮城県が得意とする産品に対する香港側の関心が高い、和牛輸出の分野で全農宮城の供給力はトップレベルということさらなる輸出拡大の可能性が見込める。2024年問題への対応として仙台塩釜港から8日間で香港に到着する物流ルートが構築され、従来のトラック輸送と同じ所要時間であることから、東北における農林水産物・食品の輸出拠点となる「産直港湾化」に期待が持たれるということ。これから改善すべき課題としては、香港小売企業デイリーファームの関心が高い産品のカボチャやキャベツなどの検品作業を常時行う体制が整っていない、牛肉やメロンなどを混載する事業者や冷凍冷蔵できる倉庫が不足しているといった点が挙げられました。

香港貿易発展局東京事務所の伊東正裕所長からは「香港における日本食品・伝統工芸品の市場性と広域経済圏

への波及効果」と題して、ここ数年間で変化のあった現在の香港の現状、コロナ禍明けの訪日観光客の増加傾向について、香港での日本食や伝統工芸品の需要の高さ、日本のグラフィックデザインやインテリアの香港進出など、多岐にわたって香港と日本の関係についてお話いただきました。

◆春節パーティー

第2部は春節パーティーです。名誉顧問である村井嘉浩知事の代理として出席された宮城県経済商工観光部佐藤健二副部长による祝辞、郡和子仙台市長の代理で出席された仙台市経済局柳津英敬局長の祝辞、そして香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部のレオ・ツェー次席代表の挨拶の後、最後に香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ日本首席代表の挨拶があり、宮城県議会の外崎浩子議員の音頭で乾杯、祝宴となりました。会場には香港の春節の飾り付けも施され、料理を楽しみながら香港の気分を幾分か味わっていただけたかと思います。また、会場を一層華やかにしていただいたのがアトラクション・シャンソン（佐藤よしみ氏）のミニコンサートです。美しいメロディに情感豊かな歌唱には、会場は大いに盛り上がりました。メインイベントはやはり毎回恒例の「お楽しみ抽選会」です。今回も多くの企業様よりご協賛いただき、様々なジャンルの景品を前に順番に抽選をいたしました。当たるたびに歓声が聞こえ、とても賑やかなパーティーとなりました。

最後は、宮城日本香港協会の大坪富雄代表理事の締め挨拶で終了いたしました。宮城・東北の農林水産物・食品が継続的に香港の皆様のお食卓に上ることができるよう、宮城県や東北地方の強みや課題を理解し、正確で最新の情報を発信することに努め、香港との繋がりを更に深めるため、尽力して参ります。



宮城県議会議員・外崎浩子氏による乾杯

春節・香港ビジネスセミナー ～香港の最新事情と沖縄の企業の可能性～開催

沖縄日本香港協会と香港貿易発展局の共催による「春節・香港ビジネスセミナー～香港の最新事情と沖縄の企業の可能性～」が令和6年3月18日、中小企業振興会館のホールで開催されました。同会館は1月に落成した、那覇商工会議所の新しい建物です。

沖縄日本香港協会の石嶺伝一郎会長は、冒頭「昨年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に引き下げられ、インバウンド需要が復活するなど、コロナ禍を乗り



沖縄日本香港協会石嶺会長挨拶

り越え平時に移行しつつあります。香港からの観光客についても、台湾・韓国に次ぎ3番目に多く沖縄を訪れて頂いており、国際航空路線や国際クルーズ船の再開により今後もさらなる回復が見込まれております。沖縄との結び付きも強い香港、新型コロナウイルスの感染拡大や政治的な混乱による影響を受けましたが、香港が有する地理的優位性やビジネスを支える様々な機能は今なお健在であり、今後もアジアのゲートウェイとしての重要性は揺るがないものと考えております。春節・香港ビジネスセミナーが、本日お集まりの皆様のビジネスに資するとともに、香港と沖縄の更なる交流・発展に繋がれば幸いに存じます」と挨拶しました。

来賓として、香港特別行政区政府駐東京経済代表部のウィンサム・アウ首席代表は、「沖縄県が香港に事務所を開設して19年を数え、沖縄に関する情報を提供して頂いていることに感謝しています」と述べられた後、「2023年香港は第5位の商品貿易相手国となり、観光面では香港から日本への観光入域者数が210万人を数え、訪日外国人全体の8%を占める第4位となりました。また今年1月香港は日本の食品輸出でトップとなり特に水産物の輸出は首位となりました。」

また先日、ポール・チャン財政長官が香港を金融センターとイノベーション・テクノロジーハブに重点を置くと共に、グリーンエコノミーとデジタルエコノミーという新たな領域を積極的に開拓することを明らかにしました。実際、この1年で新しい分野のグローバル企業約30社と戦略的パートナーシップを結んでおり、これにより総額300億香港ドル（約5700億円）の投資と1万人の雇用がもたらされる見込みと表明しました。スタートアップ企業も繁栄を続けており、過去最多となる約4300社



（株）萌す 後藤大輔代表取締役社長

が香港で事業を展開しています。つまり香港はこれまでどおりグローバル企業に選ばれる都市です」と挨拶しました。

セミナーでは株式会社萌す(きざす)の後藤大輔代表取締役社長が登壇、「沖縄の地域商社が取り組む香港ビジネス」と題して講演しました。

後藤氏は2005年に沖縄に移住後、水産物販売・輸出に参入、2015年に地域商社萌すを設立、現在は香港・台湾に輸出先を拡大しており、現地の商流に強い販路を確立されています。後藤氏は「香港には様々なジャンルのレストランや小売店があり、日本の“珍しいもの”や“鮮度が良いもの”がとても好まれる」と話し、鮮度を保つための商品ごとの温度管理の為、QRコードを活用したラベルを活用した実証実験を行っていることが報告されました。

またJR九州との連携で新幹線の使われなくなったワゴンサービスの商品収納スペースを活用した「新幹線荷物輸送サービス」により、鹿児島～福岡を2時間、鹿児島～大阪を4時間で運ぶことができ、航空機輸送と組み合わせることにより、香港のレストランに鮮度が高い食材の提供、輸送時間がボトルネックで市場に出回らなかった食材の提供、注文に応じることによるフードロスを抑制することができると語りました。セミナー終了後、交流会も開催され参加者が名刺交換をしながら情報交換を行いました。

沖縄の強みを生かした地域商社の香港での取り組みは参加者に大いに参考となる有意義なセミナーとなりました。



春節セミナー終了後の交流会



香港現地視察

昨年開催された「香港フォーラム2023」に合わせ、当協会では現地のDON DON DONKIやシティ・スーパー、そごうなどの視察を行いました。

DON DON DONKIは多くの日本商品で埋め尽くされ、利用者層は20代～30代が多いように見受けられました。訪問時は、日本から空輸された野菜フェアが実施されており、生鮮食品も所狭しと並べられていました。価格は日本の約1.5倍～2倍の商品が多く、少し割高でした。また、日本商品で埋め尽くされていることもあり、まるで日本にいるような錯覚を覚えました。

シティ・スーパーでは、海外からの輸入品が多く取り揃えられている中、日本企業の店舗が併設され、日本酒や焼酎などの品揃えが豊富で、その他にも、「Japanese Sauce」「Japanese Stick Biscuit」等のコーナーが常設されていました。一方で、牡蠣の取り扱いもあり、広島産を探しましたが、広島産・日本産はなく、多くはフランス産が取り扱われておりました。

そごうは銅鑼湾店に足を運びましたが、ガイドによると、日本でいう原宿や渋谷のような場所に立地しているとのことでした。平日の夕刻に訪れたにもかかわらず、館内は多くの人で賑わっており、活気が溢れておりました。

上記3店舗において、当協会の会員でもあるオタフクソース株式会社の商品が陳列されているのを目の当たりにし、広島の馴染みある商品が香港の方に受け入れられていることに喜びを感じました。

また、視察を行った日の夜は、香港広島県人会の皆様との交流会を実に5年ぶりに開催いたしました。5年ぶりに参加される方、初めて参加される方など13名にお集まりいただき、広東料理に舌鼓を打ちながら、広島のローカル話や思い出話、近況報告などの情報交換を行い、あっという間の楽しい一時でした。情報交換の中では、当協会のセミナー実施時に講演いただくことも可能というお言葉を頂戴し、引き続き交流を図りながら、今後の実施に向けて検討を重ねていく予定です。



香港広島県人会との交流会の様子

春節意見交換会

令和6年2月22日、春節意見交換会をシェラトングランドホテル広島にて開催いたしました。当協会では、これまで役員間の意見交換会として開催していましたが、今般は役員以外の協会会員だけではなく、協会会員以外の企業にも幅広くお声がけし、開催する運びとなりました。



ご講演の様子

春節意見交換会の中での講演では、関西日本香港協会の終身会員であるマインドフリー株式会社のダニエル・レオン様に「香港におけるライブコマースビジネスについて」、香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ日本首席代表に「香港の最新情報報告」というタイトルのもと、ご講演をいただきました。参加者の方々からは、「中国人と台湾人、香港人の違いが具体例でよく分かり、参考となった」「クーポンにおける日本人と世界の違いが興味深かった」「香港での口コミの重要性を感じた」「SNSの活用方法を今後検討していきたい」「現地視察を兼ねて活気ある香港を体感したい」などの好意的なご意見が多数寄せられました。

加えて、ダニエル・レオン様には、春節意見交換会後に、希望された5社との個別面談を実施し、各企業の相談に丁寧にご対応いただきました。ビジネスの実現性やライブコマースでの売上獲得方法、販路開拓についてなど、幅広い質問が投げかけられました。そして、この個別面談を機会に、取引に繋がる企業も見込まれるなど、大変有意義なものとなりました。

最後に、来賓としてお越しいただいた、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部のレオ・ツェー次席代表、当協会とともに主催していただいた、香港貿易発展局の田中洋三大阪事務所次長には、この場をお借りして感謝申し上げます。

今後も県内企業の香港進出を手助けするべく、マインドフリー株式会社やその他の地域の協会との連携を図っていき、サポートを行っていく予定です。

「香港フォーラム視察ツアー」「新潟県産食品フェア視察ツアー」の同時開催

4年ぶりのリアル開催となった香港フォーラムは、新潟日本香港協会主催で視察ツアーを開催いたしました。また、同時期に新潟県産食品フェア視察ツアーも実施し、会員およびフェア出展企業を含む10名がご参加くださいました。フォーラム参加に加え、吉田会長のクボタ現地工場視察や現地ショッピングモールでのフェア視察等、充実した内容となりました。

フォーラムでは久々に全国連合会の方々とお会いすることができ、参加者も他拠点、他業種の会員様と活気溢れる交流をされていた姿が印象的です。また、クボタ現地工場では、精米・保管ラインの新しいビジネスモデルを確立された責任者から日本の美味しいお米を新鮮な状態で販売したいという熱意を直接お聞きできました。DON DON DONKI 香港にも訪問し、新潟県産食品フェアの他、日本酒や食料品にあふれる店内は、日本そのものようで皆驚きを隠せませんでした。

現地法人の米事業の取り組みやショッピングモールへの新潟県産品の出品は大変悦ばしく、さらに新潟の魅力を発信したいと感じたツアーとなりました。



クボタグループ現地工場訪問

春節セミナー&パーティー開催 ～新潟農産物の香港輸出について～

去る2月28日、香港貿易発展局との共催で「2024年春節セミナー&パーティー」をANAクラウンプラザホテル新潟にて開催いたしました。セミナーは基調講演とパネルディスカッションの2本立てとし、総勢46名にご参加いただきました。

第一部は吉田会長より最新の香港レポートと題しご講演いただきました。昨年に参加された香港視察での現地工場に訪れたことも踏まえ、香港での米需要についてクボタグループの数値をご紹介くださいました。輸送方法を精米から玄米に変え、現地で精米・保管するラインの導入は、「新鮮で美味しいお米を届けたい」という農家

の思いが実現する挑戦です。香港での実績は他国での輸出成功に繋がるという会長のお言葉に皆意欲を掻き立てられました。



春節セミナー（パネルディスカッション）

第二部は、貿易発展局東京事務所伊東所長の進行により、新潟商工会議所、そして共に香港へ新潟県産品の輸出実績を持つ2社を招いたパネルディスカッションを実施しました。新潟商工会議所では輸出にチャレンジする企業の海外支援をしています。そして商工会議所と共に県産の赤玉メロンの輸出を実現させた眞田（さなだ）農園は、昨年7月に香港デイリーファームグループ4店舗で販売、即日完売という実績を残しました。眞田代表取締役は、「人口減少や少子高齢化により国内市場が縮小していく中で、海外販路の多角化により地元農業の活性化が必要。農家自らがチャレンジすることで魅力ある県産農産物を将来に残していきたい」と語られました。もう1社の想樹（そうじゅ）は、自身の梨農家運営に加え、近隣生産者と販売・流通事業を展開する企業です。香港のみならず、タイやシンガポール等、販路拡大に挑まれており、土田代表取締役は、「選ばれる商品づくりが重要。丸いものが縁起物と好まれる春節・中秋節に梨の販売時期を図ったり、パッケージデザインをその国の好みに合わせたり、販促方法を工夫している」と写真を使用して説明してくださいました。

セミナー終了後はパーティーを開催し、セミナー登壇者をはじめ多くの方にお集まりいただきました。開会挨拶では主催者として、吉田会長よりご挨拶を、来賓挨拶では香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部レオ・ツェー次席代表より新潟の魅力と今後の可能性を後押しするお言葉を頂戴いたしました。続いて、中華人民共和国崔為磊駐新潟総領事による乾杯挨拶のもと宴が始まりました。会員・非会員の垣根を越えて、海外事業の取り組みや生産・商品開発について等、参加者同士の懇親を深め、春節らしい賑やかな雰囲気となりました。最後は高橋副会長による閉会の挨拶でパーティーを締めくくりました。ご多忙中、ご参加いただいた皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。



高知日本香港協会 事務局長 横山 公大

春節セミナー開催

昨年のゴールデンウィーク以降、全国的に経済や人流の回復が戻り、迎えた2024年は辰年、まさに飛龍の如く飛躍の一年となる矢先、1月1日に発災した能登半島地震により、北陸地方をはじめ、全国各地において激震のはじまりとなりました。家屋の倒壊、津波、その後の火災等でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被災された皆さまへ心からお見舞いを申し上げます。まだまだ復旧が思うように進まず、命の水の確保がままならない地域もあり、心が痛むばかりではありますが、高知からも復興に向けて息の長い支援ができるよう努めてまいります。

さて、恒例の春節セミナーにおいては、全国各協会の皆さまも趣向を凝らした設営をされたことと存じます。当協会では春節セミナー開催前に、



桑名高知市長への表敬訪問

濱田省司高知県知事、西山彰一高知県商工会議所会頭、桑名龍吾高知市長への表敬訪問を、香港特别行政区政府駐東京経済代表部ウィンサム・アウ首席代表はじめとした関係者の皆さまにて執り行い、桑名高知市長への表敬訪問には、森本高知協会会長も同席をさせていただき、日頃の活動報告をお伝えすることができました。桑名市長からは、昨今の高知インバウンド観光においては、香港からのお客様が大変多くなってきており、貿易関係においても高知の地酒や農産品など地場産品の輸出も増加をしていることに触れ、今後も高知日本香港協会の力が必要であり、関係性をより強くしていきたいと力強い言葉もいただきました。桑名高知市長においては、その後の春節セミナー

懇親会にご参加予定でしたが、公務で叶わずご丁寧なご祝辞を頂戴したことも併せてご報告いたします。

春節セミナーでは、まず、香港貿易発展局ベンジャミン・ヤ



ベンジャミン・ヤウ日本首席代表のご講演

ウ日本首席代表より来賓のご挨拶をいただき、香港貿易発展局の全国的な取り組みや、2023年には香港から約210万人が日本に訪れ、香港が訪日外国人全体の8%を占める第4位となったこと、そしてこれからの高知に対する期待と共に心強い言葉をいただきました。

香港経済貿易代表部ウィンサム・アウ首席代表からは、「帰省した香港で感じた最新の香港情報」と題したご講演をいただき、活気あふれる香港の現状、そして多くのビ



ウィンサム・アウ首席代表のご挨拶

ジネスチャンスが広がっており、高知においても橋渡しの役目も務めていきたいと有難いご提案をいただきました。

当協会森本会長からは、先般開催された香港フォーラムの出張報告と共に、「香港の現状と今後のビジネス展望について」の報告があり、アフターコロナで様変わりした香港の活気と、経済の成長を目の当たりにしてきた一方で、自身が手掛けてきた飲食店が、コロナを経て閉店を余儀なくされたことの報告に参加者が落胆。と思いきや、現地の飲食店経営者の友人たちから様々なアイデアを出していただき、今後定期的なポップアップ出店の約束を取り付けてきた嬉しい報告もありました。やはりビジネスチャンスは対人にあります。香港のあたたかさに触れた会長報告でした。

いよいよ2024年度のスタートです。高知協会においては、コロナで減少した会員数ですが、活気を取り戻した今、再度会員拡大に力を入れ、ビジネス研修会やビジネスツアーを強化していきたいと考えております。



森本高知協会会長の報告

また高知県においては、2023年に過去最高の観光入込客数473万人を記録し、2024年度においては「極上の田舎、高知。」をコンセプトに「どっぷり高知旅キャンペーン」を企画しており、県内くまなく様々な観光プランがございます。

各協会の皆さまにも是非足を運んでいただきますようお願い申し上げます。



飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易發展局内

中部日本香港協会 電話 (0533) 77-2468
〒441-0304 豊川市御津町佐脇浜3号地1-27 株式会社平松食品内

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0021 仙台市青葉区中央1丁目6-18 山一仙台中央ビル8階
(株)Sola.com 内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301
株式会社オトル内



貴社のご出張に「マイル」の特典をプラス！ キャセイパシフィックのビジネスプラス

「ビジネスプラス」は無料の法人向け出張特典プログラム。
出張者が個人口座をつなぎ、貴社も法人口座でマイルを獲得して、多彩な特典が楽しめます。

『飛龍』読者の皆様に新規ご入会ボーナスキャンペーン*

期間限定で、ビジネスプラス新規ご加入の法人様に5,000マイルをプレゼント！
(日本ー香港エコノミークラス5往復分でたまるマイル相当分)

対象登録期間：2024年6月1日～8月31日

*ビジネスプラス既存会員、弊社個別対応契約企業、および旅行会社は対象外です。
ビジネスプラスならびにキャンペーンの規約が適用されます。

プログラムの詳細は cathaypacific.com/cx/ja_JP/cathay-business/business-plus をご覧ください。



ご登録はこちら

